

めぐみイエス・キリスト教会

2023年7月23日(日) 第四主日礼拝

午前10時より

週報「通算第667号」



2023年標題聖句

第 I ヨハネの手紙第5章4節～5節

《神から生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌258「墨よりも黒き心なれど」p. 402

【交読文】 No.32 詩篇第103篇 p. 905

【賛美Ⅱ】 新聖歌426「世には良き友も」 p. 686

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.1「愛の国となるために」

【聖書朗読】 ルカの福音書1章1節～4節(新約p. 106)

【礼拝説教】 《ルカの福音書》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(ルカの福音書1章1節～4節)

1:1 2 私たちの間で成し遂げられた事柄については、初めからの目撃者で、み言葉に仕える者となった人たちが私たちに伝えたとおりのことを、多くの人がまとめて書き上げようとすでに試みています。

1:3 私も、すべてのことを初めから綿密に調べていますから、尊敬するテオフィロ様、あなたのために、順序立てて書いて差し上げるのがよいと思います。

1:4 それによって、すでにお受けになった教えが確かであることを、あなたによく分かっていただきたいと思います。

●ポイント1.「ルカ」とは？

※使徒の働き13章1節「アンティオキア教会において」(新約p.259)

13:1 さて、アンティオキアには、そこにある教会に、バルナバ、ニゲルと呼ばれるシメオン、クレネ人ルキオ、領主ヘロデの乳兄弟マナエン、サウロなどの預言者や教師がいた。

■ルカ パウロはルカを「愛する医者」と呼び、また「私の同労者」と呼んでいる。ルカはパウロの伝道旅行に同行しており、そこで起ったことを目撃した者でもあった。ルカは医者として、事実を正確に見る訓練ができていたので、彼の歴史の記述は信頼し得るものである。また彼は異邦人であった。テモテへの手紙での言及は、パウロの最後の時にもルカが共にいて、パウロに忠実であったことを語っている。

●ポイント2.「テオフィロ(テオピロ)」とは？

■テオフィロ 「ルカの福音書」と「使徒の働き」が献呈された人物で、テオフィロというのは「神の友」という意味である。「尊敬する」と言う原語は、「閣下」と同じであり、ローマ社会の重要な地位にあった人物と思われる。「すでに教えを受けられた事がら」とあるように、クリスチャンである可能性が高い。それでルカは彼に、正確で順序立てて、主イエス・キリストと教会のことを伝える必要があった。

●ポイント3.「ルカの福音書」が書かれた意味とは？

※ルカの福音書21章20節～21節「紀元70年の預言」(新約p.163)

21:20 しかし、エルサレムが軍隊に囲まれるのを見たら、そのときには、その滅亡が近づいたことを悟りなさい。

21:21 そのとき、ユダヤにいる人たちは山へ逃げなさい。都の中にいる人たちはそこから出て行きなさい。田舎にいる人たちは都に入ってはいいません。

※ヨハネの福音書14章26節「主イエス様の約束」(新約p.215上段左)

◎先週の礼拝メッセージ【その後のパウロ】

《ローマにやって来たパウロは、自費で借家に住むことを許されます。さて、パウロは、ローマ在住のユダヤ人の長老たちを集めました。そして、神の国のことを証しし、旧約聖書から、主イエスについて、朝から晩まで彼らに説明したのです。ある人たちはパウロが語ることを受け入れましたが、他の人たちは信じようとはしませんでした。そこで、パウロは、イザヤ書の言葉を引用して言いました。「ですから、承知しておいて下さい。神のこの救いは、異邦人に送られました。彼らが聞き従うこととなります。」と。この後の29節は、本文欠如ですが、『彼がこれらのことを話し終えると、ユダヤ人たちは互いに激しく論じ合いながら、帰って行った。』と言う節を加えている写本もあります。

さて、『パウロは、まる二年間、自費で借りた家に住み、訪ねて来る人たちをみな迎えて、少しもはばかりことなく、また妨げられることもなく、神の国を宣べ伝え、主イエス・キリストのことを教えた。』と言う文章で、使徒の働きは終わっています。

ところで、ローマにおけるこの二年間は、一体どのような意味を含んでいたのでしょうか。私は、ルカによる福音書と使徒の働きの執筆の監修の為ではなかったかと考えています。また、エペソ、ピリピ、コロサイ、プレモンへの手紙が、執筆されたのも、ローマの獄中でした。

その後のパウロは、紀元62年頃に、皇帝ネロの裁判を受け、無罪となり釈放されます。伝承では、ヨーロッパの果てと言われたイスパニア(スペイン)にまで、伝道に行ったことが伝えられています。

紀元64年に、ローマの大火が起こります。皇帝ネロは自分が放火犯と疑われた為、ローマにいるクリスチャンに罪を着せ、クリスチャンの大迫害が起こります。その迫害の最中にパウロは捕らえられます。

そして、紀元66年から68年の間に、斬首され殉教するのです。》

◎お知らせ

※次回礼拝は、7月30日(日)午前10時からです。平山廣恵先生と松本望美先生をお迎えして、特別宣教礼拝を行ないます。